

現代日本学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	文芸社会史入門	2	高橋 章則	1学期	水	2	1	対応科目なし
現代日本学学芸分析特論Ⅱ	戦後日本マンガの学術的研究	2	高橋 明彦	集中(2学期)			2	対応科目なし
現代日本学歴史分析特論Ⅰ	日本史文献購読・英訳	2	CRAIG CHRIST OPHE	1学期	火	2	3	対応科目なし
現代日本学社会分析特論Ⅰ	現代日本における家族と人口	2	田中 重人	2学期	木	2	4	対応科目なし
現代日本学日本哲学特論Ⅰ	インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観	2	FONGARO ENRI CO	2学期	木	5	5	対応科目なし
現代日本学研究特論Ⅰ	文芸社会史研究	2	高橋 章則	2学期	水	2	6	対応科目なし
現代日本学総合演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリ ストファー	1学期	水	3	7	対応科目なし
現代日本学総合演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリ ストファー	2学期	水	3	8	対応科目なし
現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	文芸社会史研究の実践	2	高橋 章則	1学期	月	2	9	対応科目なし
現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	近代日本史における震災	2	CRAIG CHRIST OPHE	2学期	火	2	10	対応科目なし
現代日本学社会分析研究演習Ⅰ	現代日本における社会問題の分析	2	田中 重人	1学期	木	2	11	対応科目なし

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM13201， 科目ナンバリング：LJS-OHS601J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

文芸社会史入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

4. 学習の到達目標：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画

第1回：はじめに—日本学の課題を考える—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第3回：人文科学の課題

第4回：文化史学の課題

第5回：歴史学のなかの文化史学

第6回：「書物の秩序」

第7回：「読書の社会史」

第8回：文献学と文芸社会史

第9回：文芸社会史の研究①

第10回：文芸社会史の研究②

第11回：文芸社会史の研究③

第12回：日本学の課題と文芸社会史①

第13回：日本学の課題と文芸社会史②

第14回：日本学の可能性

第15回：まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

R・シャルエ『読書の秩序』(文化科学高等研究院出版局)・その他、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

「書物の社会史」に関する基礎文献の把握に努める。

9. その他：なし

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)、 単位数：2

担当教員：高橋 明彦 (非常勤講師)

講義コード：LM98803、 科目ナンバリング：LJS-OHS602J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

戦後日本マンガの学術的研究

2. Course Title (授業題目)：

Academic Research in Postwar Japanese Manga

3. 授業の目的と概要：

戦後日本のマンガを学術的に研究すべく、マンガ独自の表現方法に即して作品を論究する方法(マンガ表現論)、および文献学を基礎として作家・作品を総合的に論究する方法(文献学的アプローチ)を学びます。加えて、代表的なマンガ作品の分析を通じて、現代日本のサブカルチャーの思潮の一端にも触れます。

4. 学習の到達目標：

戦後日本のマンガに対する思潮の理解、および学術的研究方法の習得

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：マンガ表現論・総論／マンガ描線の記号性と力動性

第2回：同／コマ割りの継起性

第3回：同／コマ割りの並存性

第4回：マンガ表現論・各論／視線誘導論

第5回：同／キャラクター論

第6回：文献学的アプローチ／文献学の構造と方法(基礎研究)

第7回：同／マンガをメディア史的に概観する(歴史的展開研究)

第8回：サブカルチャーの思潮／こどもは成長するースポ根と『釣りキチ三平』、正義と『デスノート』、労働と『ヒミズ』

第9回：同／少女は変容するーお母さま・恋愛・美少年、『洗礼』『11人いる!』

第10回：同／青年は挫折するー友情・努力・勝利から嫉妬・才能・挫折へ、『ピンポン』

第11回：同／世界は滅亡する①『来るべき世界』『赤いトナカイ』

第12回：同／世界は滅亡する②『漂流教室』『風の谷のナウシカ』『14歳』

第13回：同／セカイは滅亡する『わたしは真悟』『最終兵器彼女』

第14回：同／革命は失敗する①『悪魔くん(貸本版)』

第15回：同／革命は失敗する②『忍者武芸帳』『カムイ伝』

定期試験：毎時間ミニレポートを課します(5分程度)。

6. 成績評価方法：

授業内容に関するレポートを課します。理解・達成度を判定して成績を付けます。

7. 教科書および参考書：

テキスト：プリントを配布します(多量に配布するので各自できちんと整理してください)。

参考書・参考資料等：高橋明彦『楳図かずお論』(青弓社・2015年刊)には、マンガ表現論に関する総論が記してあります。

上記授業計画で示したマンガ作品については、古典的名作ですから、事前に読んでおくことを勧めます。その他の参考書・研究書、マンガ作品も、授業の中で紹介します。

8. 授業時間外学習：

戦後日本のマンガに対する思潮に着目する。

9. その他：なし

科目名：現代日本学歴史分析特論 I / Japanese Studies History Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE (准教授)

講義コード：LM12201， 科目ナンバリング：LJS-OHS603B， 使用言語：2 カ国語以上

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

日本史文献購読・英訳

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

6. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

9. その他：なし

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：現代日本学社会分析特論 I / Japanese Studies Society (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM24201， 科目ナンバリング：LJS-0HS604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

現代日本における家族と人口

2. Course Title (授業題目)：

Family and Population in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する

4. 学習の到達目標：

現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：はじめに：社会分析のための知識と方法

第 2 回：法と規範

第 3 回：法的な情報を調べる方法

第 4 回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論

第 5 回：現代日本の家族法について補足説明

第 6 回：人口統計と人口現象

第 7 回：20 世紀日本社会の人口変動

第 8 回：講義前半の振り返りと進度確認

第 9 回：ライフサイクルの変化

第 10 回：近代化にともなう社会変動

第 11 回：工業化と都市化

第 12 回：イエ制度の解体と個人主義化

第 13 回：日本的経営と福祉国家

第 14 回：講義後半の振り返りと進度確認

第 15 回：講義全体のまとめと講評

6. 成績評価方法：

授業中に課す課題および宿題による

7. 教科書および参考書：

なし

8. 授業時間外学習：

各回の課題に対応する予習・復習と宿題

9. その他：なし

科目名：現代日本学日本哲学特論 I / Japanese Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO (准教授)

講義コード：LM24501， 科目ナンバリング：LJS-OHS605E， 使用言語：英語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese philosophy from an intercultural perspective

3. 授業の目的と概要：

インターカルチャー的視点から日本哲学について、京都学派を中心として概観し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

日本哲学とは何か、またその変遷について京都学派を中心として、重要なキーワードに沿って解説を行なう。それと同時に哲学と翻訳の本質的な結びつきに関して論じる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：日本哲学とは

第 2 回：日本哲学における翻訳の問題

第 3 回：現代日本哲学入門

第 4 回：日本哲学における「京都学派」

第 5 回：西田幾多郎の哲学（1）純粹経験の哲学

第 6 回：西田幾多郎の哲学（2）場所

第 7 回：西田幾多郎の哲学（3）歴史的世界

第 8 回：西田幾多郎の哲学（4）行為的直感

第 9 回：田邊元の哲学（1）西田哲学への批判

第 10 回：田邊元の哲学（2）種の論理

第 11 回：久松真一の美学・思想

第 12 回：西谷啓治の哲学（1）ニヒリズムの問題

第 13 回：西谷啓治の哲学（2）宗教とは何か

第 14 回：インターカルチャーの立場から見た京都学派の「解体」の可能性について

第 15 回：試験とまとめ

6. 成績評価方法：

授業内容に関する口頭試問。

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

課題文献を読み、授業内容をより深く理解すること。

9. その他：なし

科目名：現代日本学研究特論 I / Japanese Studies Research (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM23201， 科目ナンバリング：LJS-OHS606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

文芸社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献を取り上げ、日本学の基盤を考察する。

4. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第 3 回：人文科学の特色①

第 4 回：人文科学の特色②

第 5 回：文化史学とは①

第 6 回：文化史学とは②

第 7 回：歴史学再考①

第 8 回：歴史学思考②

第 9 回：社会史とは①

第 10 回：社会史とは②

第 11 回：文芸社会史とは

第 12 回：文芸社会史の研究手法

第 13 回：文芸社会史と個人史

第 14 回：文芸社会史と地域史

第 15 回：まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献に触れる。

9. その他：なし

科目名：現代日本学総合演習 I / Japanese Studies (Comprehensive Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー（教授、准教授）

講義コード：LM13301， 科目ナンバリング：LJS-OHS607J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

現代日本学の実践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第 3 回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第 4 回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第 5 回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第 6 回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第 7 回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第 8 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第 9 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第 10 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第 11 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第 12 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第 13 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第 14 回：日本学の課題についての総合討論①

第 15 回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

9. その他：なし

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー（教授、准教授）

講義コード：LM23301， 科目ナンバリング：LJS-OHS608J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

現代日本学研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：社担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

9. その他：なし

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I / Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM11201， 科目ナンバリング：LJS-OHS609J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

文芸社会史研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

文芸（「狂歌」）と用いた社会史研究の方法を習得する。

4. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解し、研究方法を習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめに一文芸社会史とは何かー

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第 3 回：「狂歌」の歴史的な意義

第 4 回：「狂歌」を用いた歴史研究

第 5 回：文芸（「狂歌」）と美術（「浮世絵」）

第 6 回：課題の設定と成果①

第 7 回：課題の設定と成果②

第 8 回：課題の設定と成果③

第 9 回：課題の設定と成果④

第 10 回：課題の設定と成果⑤

第 11 回：課題の設定と成果⑥

第 12 回：課題の設定と成果⑦

第 13 回：課題の設定と成果⑧

第 14 回：課題の指摘と発展的考察①

第 15 回：課題の指摘と発展的考察②

定期試験

6. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

7. 教科書および参考書：

附属図書館の古典籍を利用し、発表資料を作成する。

授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

附属図書館の古典籍に触れる。

9. その他：なし

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I / Japanese Studies History (Research Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE (准教授)

講義コード：LM22201， 科目ナンバリング：LJS-OHS610B， 使用言語：2 カ国語以上

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

近代日本史における震災

2. Course Title (授業題目)：

Disasters in Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：

19 世紀から現在の災害を紹介し、歴史学及び社会的に分析する。地震、飢饉、津波のような自然災害の外に、空爆や炉心溶融のような人工的な災害も含む。近代日本の代表的な災害を世界の災害の事例と比較し、グローバルヒストリーの文脈に分析する。

4. 学習の到達目標：

日本震災史に関する歴史学及び社会学、人類学的な問題と分析方法を意識する。震災に関する英語の研究を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：序論：2011. 3. 11

第 2 回：日本における災害：概論

第 3 回：知物理学の支店からみる日本

第 4 回：江戸時代の飢饉

第 5 回：学生発表：天保の飢饉とジャガイモ飢饉

第 6 回：関東大震災：背景

第 7 回：関東大震災：結果

第 8 回：学生発表：関東大震災とサンフランシスコ地震

第 9 回：日本本土空襲

第 10 回：学生発表：日本とドレスデンの爆撃

第 11 回：東北地方太平洋沖地震：背景

第 12 回：東北地方太平洋沖地震：結果

第 13 回：学生発表：東北地方太平洋沖地震と 2004 年スマトラ島沖地震

第 14 回：原子力発電について

第 15 回：学生発表：福島とチヨルノーブリ

6. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

資料のリアクション・ペーパーを書く。

発表 1 回。

Class readings are to be completed before class meetings.

Reading responses are to be submitted during the semester.

1 Presentation.

9. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：現代日本学社会分析研究演習 I / Japanese Studies Society (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM14201， 科目ナンバリング：LJS-OHS611J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

現代日本における社会問題の分析

2. Course Title (授業題目)：

Research of Social Problems in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ

4. 学習の到達目標：

社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。

第 1 回：はじめに：この授業での課題設定と調査の方法

第 2 回：近代日本における家族制度・人口変動・社会政策の概要

第 3 回：課題設定のための討論

第 4 回：文献検索とデータベース利用

第 5 回：近代日本の統計システム

第 6 回：統計資料の評価と活用

第 7 回：各自のテーマと先行研究について報告と討論

第 8 回：近代史研究のための専門用語と理論体系

第 9 回：アイデアの創出

第 10 回：アイデアの交換と建設的批判

第 11 回：途中経過の報告と討論

第 12 回：プロジェクトとしての近代史研究

第 13 回：研究の倫理

第 14 回：発表会

第 15 回：発表内容についての講評および期末レポート作成に向けての注意事項

6. 成績評価方法：

授業中の課題（30%）、途中経過等報告と討論での発言（30%）、期末レポート（40%）

7. 教科書および参考書：

佐藤望ほか（2012）『アカデミック・スキルズ』（第 2 版）慶應義塾大学出版会

8. 授業時間外学習：

授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしたがって研究プロジェクトを進める

9. その他：なし